

## 音楽を手話で可視化

### パフォーミングスライヴ

12月19日、出石高校体育館で「ハンドサイン手話パフォーミングスライヴin出高」を開催しました。

「ハンドサイン」は、ダンスに手話を取り入れ歌うパフォーマンスです。本年度、市民会館主催で、市内全29小学校で訪問コンサートを実施しました。今回、高校生にも手話の大切さを伝えたいというハンドサインからの申し出に、出石高校が応えて実現しました。

ライブでは、歌詞を手話で可視化し、高校生らと一緒に踊るなど、手話に関心を持つきっかけとなりました。

《問合せ》市民会館 ☎23-0255



▲出高生や地元の方など約250人が参加し手話という「言語」を身近に体験

## 欧米豪からの集客増に向け

### せとうちと相互連携

12月23日、本庁舎庁議室で、本市は、一般社団法人豊岡観光イノベーション(TTI)および一般社団法人せとうち観光推進機構と、インバウンド(訪日外国人旅行)に関して相互連携する協定を締結しました。

同機構は本市と同じく欧米豪からの誘客に注力しており、同機構が有する販売戦略手法で広域的に本市の宣伝も行います。本市とTTIは、地域の資源を生かした商品開発を行い、双方のインバウンド集客増加を図ります。

《問合せ》大交流課 ☎21-9016



▲協定書を手にする、せとうち観光推進機構専務理事の金平京子さん(左)と中貝市長

# 市政 ニュース

## 〈主な市政の動き〉

### 〔12月〕

- 15日・市民ふれあいのつどいパート2
- 19日・ハンドサイン手話パフォーマンススライヴin出高
- 第4次豊岡市行政改革大綱を策定
- 23日・せとうち観光推進機構/豊岡観光イノベーション/豊岡市相互連携協定を締結
- 24日・豊岡市体育施設等個別施設計画を策定
- 26日・集英社鼎談公開イベント「劇作家平田オリザ、

### 〔1月〕

- 4日・お正月Uターン就職・Uターン転職相談会(5日)
- 6日・市役所仕事初め式
- 11日・豊岡市賀詞交換会初式
- 12日・2019年度豊岡市成人式
- 27日・市役所仕事納め式
- 歴史学者成田龍一、国文学者小森陽一
- 出石温泉乙女の湯無償譲渡と土地貸付契約を締結



## 市民と市の隆盛を祝い

## 新年のあいさつを交わす

1月6日、本庁舎大会議室で、豊岡市賀詞交換会を開催し、地元選出の国會議員や県議會議員、市内企業の関係者、市民ら約100人が、市の隆盛を祝い、新年のあいさつを交わしました。

参加者全員による国歌斉唱に続き、中貝市長と関貫議長から新年のあいさつがあり、中貝市長は「公共施設マネジメント、人口減少対策、ジェンダーギャップ解消」などの取組みへの決意を述べました。

その後、市歌を斉唱し、本市の発展を願い万歳三唱を行いました。

《問合せ》秘書広報課 ☎23-11114



▲衆議院議員の谷 公一さんの音頭で万歳三唱をする参加者

## 決意を新たに

## 市民の安全・安心を守る

1月11日、消防本部で、豊岡市消防本部消防出初式を挙行しました。

式典では、表彰伝達などを行った他、松岡消防長から「役割を果たすために、瞬発力、アプローチ、浸透を三つのキーワードに、自らの目標に向けてまい進してほしい」と訓示がありました。

式典後は屋外に移動し、消防職員による消防太鼓の演奏や救助訓練の他、NHK2020応援ソング「パプリカ」に合わせた放水演技を披露しました。

新春を迎えるに当たり、市民の安全・安心を守る決意を新たにしました。

《問合せ》消防本部総務課  
☎24-8034



▲豊岡の子どもにも夢を持って成長してほしいと願いを込めた放水演技

## 中貝市長の徒然日記 ⑭

## ぼくが出会った言葉(1)

2007年5月20日、日本の野外で43年ぶりにコウノトリのヒナが誕生しました。

快挙に、日本中が沸き立ちました。

飼育下では、ヒナは誕生から約2カ月で巣立ちをします。予定日は7月20日です。その数日前から、六方田んぼの巢塔の周りには、多くの市民が集まっていました。記者たちもカメラを構え続けました。連日の猛暑。マスコミ各社のパラソルが立てられ、簡易トイレも設置されました。

ところが、7月20日が来ても、幼鳥は巣立ちません。3日が過ぎ、5日が過ぎ、1週間が過ぎても、巣立ちの気配がありません。巢の上でジャンプし、そのたびにギャラリから歓声上がるのですが、飛び立ちません。

「あー、もう嫌！」と叫ぶ記者もいました。皆の顔は真っ黒になっていました。

親が甘やかすぎなのではないか？ このまま巣立たな

いのではないかと？ ぼくたちはじりじりと焦り始めました。その矢先の7月31日午後2時15分。何の前触れもなく、幼鳥は真っ青な空に向かって、スーッと飛び立ちました。

そのとき実は、ぼくは現場にいませんでした。2日後に花火大会が控えていました。打上場所が巢塔のすぐ側です。対応を協議するため、コウノトリの郷公園の主要メンバーと県民局の会議室にいたのです。連絡を受けて、国交省が設置したライブカメラの映像で飛ぶ姿を確認し、間の抜けた歓声を上げたのでした。

運良くカメラに収めた記者、トイレに行つて逃した記者。至る所で喜びや落胆の叫びが上がったそうです。Aテレビ局のニュースには、Bテレビ局提供の映像が流れました。

この事態を冷静に見ていた人がいます。コウノトリの飼育一筋にきた松島興治郎さんです。松島さんは、こう言われました。「皆、早いか遅いか言うけど、巣立ちは決して遅くなかった。あの子にとっては、普通だったよ」